

要旨

目的 モータリゼーションの進展に伴い近年の地方鉄道を取り巻く状況は厳しいものがある。本研究で取り上げる屋代線も存続か否かを議論されている路線である。本研究では地方鉄道の活性化という観点から、乗って残すにはどのような施策が必要とされるのかをコンジョイント分析を援用し、アンケート調査から評価しようとするものである。

方法 屋代線の活性化に寄与すると思われる 5 つの要素として「観光アピール」「電車を利用したイベント」「意識啓発」「利便性の向上」「運賃改定」を設定し、これらを「重視する」「重視しない」とした仮想施策に対して「どの程度屋代線の活性化と存続を期待できるか」を回答してもらい、コンジョイント分析というマーケティングリサーチなどで近年注目され用いられている評価手法を利用して施策への期待度を調べた。アンケートは屋代線の鉄路のある長野市、須坂市、千曲市を対象として郵送によって行った。

特徴 コンジョイント分析の大きな特徴は、全体の価値を評価できると同時に属性別に価値を評価できる点である。最適な属性の組み合わせは何か、どの属性が最も選好に影響を与えているのかを一度の調査で知ることができる。

結果 アンケートの結果、屋代線沿線、沿線外ともに「沿線の観光アピール」「利便性の向上」に対する期待度が高いことが分かった。屋代線沿線には豊富な歴史遺産と自然などの観光資源があることから、これを生かす政策が支持されたものと思われる。一方「意識啓発」「運賃改定」に対する期待度は沿線、沿線外ともに低かった。「意識啓発」に関しては、どういった施策であるのかをイメージできないこと、回答者自身が自分の意識を変えることが難しいと思ったことが予想される。「運賃改定」に対する期待度が低いのが意外な結果となった。運賃が安いことが乗車の理由にはならず、やはり観光地や電車のイベントなど、乗る目的が必要とされていることがわかった。